所員個人研究　―（高校国語）

主題単元による総合学習の在り方
――指導実践と教材化の工夫――

学習指導部　**関　　博　之**

1.　はじめに

現在，高等学校国語科で行われている「国語Ⅰ」及び「国語Ⅱ」は，従前の「現代国語」の内容と「古典」の基礎的・基本的な内容をもって構成される総合的な性格をもつ科目である。したがって，現代文・古文・漢文を，一つの主題単元の中で，総合的に学習することにその導入の本意があると考えられる。

ところが，実際の指導において，主題単元による総合学習を取り入れている高校はあまり多くない。理由はいろいろ考えられるが，その最たるものは現行の「国語Ⅰ」，「国語Ⅱ」の教科書のほとんどがジャンル単元の構成になっており，主題単元による構成になっていないことである。これは，知識・理解を中心に据えた言語技能の獲得に好都合であるという学力中心の考え方を示しているのである。

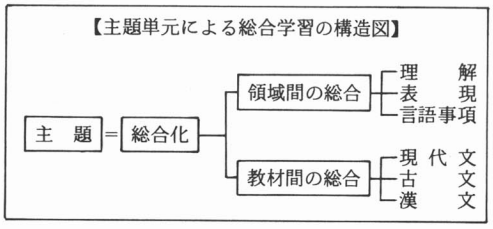
しかしながら，「国語Ⅰ」，「国語Ⅱ」導入の趣旨が「総合学習」にあることは厳然としており，その趣旨が生かされるような指導実践が期待されるところである。このような状況を踏まえて，本稿は，「国語Ⅰ」，「国語Ⅱ」における「総合学習」の趣旨を生かした指導の在り方を実践的に追究しようとするものである。

2.　「総合学習」とは

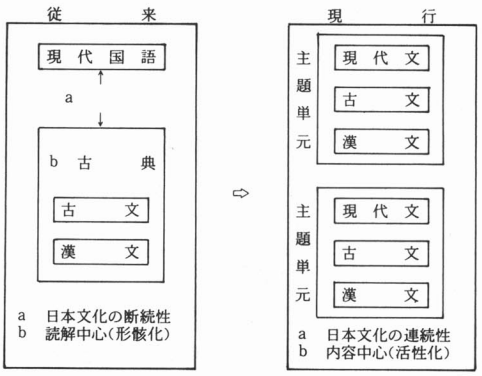
「総合」ということは，通常「領域間の総合」と「教材間の総合」として用いられているが，この考え方については宮城教育大学教授で前文部省視学官の大平浩哉氏が次のように解説している。

> 「総合」とは
> (1)　学習指導の内容が「表現」，「理解」の二領域と「言語事項」から成っていること。
> (2)　教材として「現代文」と「古典（古文・漢文）」を含むこと。
> の学習を通して，総合的な国語力を身につけさせることをねらいとする。
> 普通，主題単元というと「現代文と古典教材の総合」が考えられるが「表現と理解の関連指導」も大切なことは言うまでもない。
> （『新しい授業の工夫20選』より）

これを図に示すと次のようになる。



「総合学習」は，学習者の思考，認識の拡充・深化をはかるのに有効である。具体的に言えば，同一主題のもとで「古典」と「現代文」を読んだ場合には，歴史的視点に立って両者を比較して読めるので，日本文化，あるいは日本人のものの見方や考え方，感じ方の連続性（不易性）と非連続性（流行性）とを明らかにすることができる。言い換えれば，現代文・古文・漢文を主題単元の中で総合的に学習することによって，日本文化を過去から現在への連続としてとらえることができるばかりでなく，古典の学習を生き生きと蘇らせることにもつながると判断されるのである。このことを図式化すれば，次のようになる。



3.　主題単元による総合学習の指導実践

(1)　総合学習の指導実践の経緯